

神戸医療生協支援ニュース

2011年5月 23日 第25号

みやぎ県南地域支援行動 帰ってきました。

21日16時に出発した一行は、翌3時には現地近くに到着し、サービスエリアで仮眠を取り、7時前に「しばた協同クリニック」に到着。県南医療生協専務が出迎えてくれ、打合せを行いました。その後被災地を視察し、前回支援に行った真庭地区の土葬前では黙祷を捧げました。9時30分から元坂元中学校跡の仮設住宅を訪問。76件すべてを訪問しました。住人は若い人も多く、3世代同居もありました。訪問するにあたっては、お見舞いのお菓子や飴などを持ってあいさつ代わりに渡しながら、話を聞く事が出来たそうです。最初の話かけが難しく、きっかけとしてお菓子や飴等は喜ばれました。午後からは、最近立ち入り許可区域になった花釜地区の訪問行動でしたが、実際は住んでいる方は少なく、事前をお願いしていたお宅の泥出しを7人で担当し、その他は全戸訪問を行いました。ライフラインも復旧していない為、聞き取りが出来たお宅でも将来への不安が一番多く、震災後2カ月以上経過した中で、まだまだ全く手付かず状態の地区がある事を目の当たりにし、支援者も改めて今回の震災の甚大さを感じた行動になりました。翌23日には、朝から福島医療生協を訪問し、神戸から持参した寄せ書きを手渡しました。当日は、院長・専務・病院事務長・薬局専務が出迎えてくれました。その後福島の現況についての報告を聞き、この場所でも通常より高い放射線量が観測されており(60キロ定点)いつ避難地域になるかわからない状況である事。子どもが避難し小児科患者が減少している事。福島市内へ避難している人が多く人口が増加している事など、目に見えない放射線被害に「今後どうすれば・・・」すら考えられない状況がある事を知ることが出来ました。



21日16時に出発した一行は、翌3時には現地近くに到着し、サービスエリアで仮眠を取り、7時前に「しばた協同クリニック」に到着。県南医療生協専務が出迎えてくれ、打合せを行いました。その後被災地を視察し、前回支援に行った真庭地区の土葬前では黙祷を捧げました。9時30分から元坂元中学校跡の仮設住宅を訪問。76件すべてを訪問しました。住人は若い人も多く、3世代同居もありました。訪問するにあたっては、お見舞いのお菓子や飴などを持ってあいさつ代わりに渡しながら、話を聞く事が出来たそうです。最初の話かけが難しく、きっかけとしてお菓子や飴等は喜ばれました。午後からは、最近立ち入り許可区域になった花釜地区の訪問行動でしたが、実際は住んでいる方は少なく、事前をお願いしていたお宅の泥出しを7人で担当し、その他は全戸訪問を行いました。ライフラインも復旧していない為、聞き取りが出来たお宅でも将来への不安が一番多く、震災後2カ月以上経過した中で、まだまだ全く手付かず状態の地区がある事を目の当たりにし、支援者も改めて今回の震災の甚大さを感じた行動になりました。翌23日には、朝から福島医療生協を訪問し、神戸から持参した寄せ書きを手渡しました。当日は、院長・専務・病院事務長・薬局専務が出迎えてくれました。その後福島の現況についての報告を聞き、この場所でも通常より高い放射線量が観測されており(60キロ定点)いつ避難地域になるかわからない状況である事。子どもが避難し小児科患者が減少している事。福島市内へ避難している人が多く人口が増加している事など、目に見えない放射線被害に「今後どうすれば・・・」すら考えられない状況がある事を知ることが出来ました。



支援活動参加者の集いの開催のお知らせ

3月12日から始まった支援行動には、今回の支援行動も併せると50名を超える支援者が参加しました。震災から2カ月を過ぎ支援内容も大きく変わってきました。

今後の支援活動をどうしていけばよいかを、支援に行かれた職員と交流し、方向性を見出したいと思っています。お時間が許す限り支援に参加された皆さんの参加をお願い致します。

とき:6月1日(水)18時~19時30分

場所:クリエイト兵庫 3階 会議室